

新時代の弁護士倫理

高中正彦 = 石田京子 編

2020年12月発売 / 342頁 / 本体 3400円 + 税
A5判 / 並製



編集
担当者
から

弁護士が、職務を遂行するうえで遵守すべき倫理規範、これが弁護士倫理です。弁護士人口の増加や弁護士業務の多様化等に伴い、弁護士倫理にも大きな変化が訪れているといわれています。本書は、主に若手弁護士の方に向けて、この弁護士倫理の根幹をなす考え方の基本と応用を解説したものです。現在法科大学院では必修科目となっている弁護士倫理ですが、限られた講義時間内では、最小限の内容しか解説できない、また、OJTを十分に受けられない小規模事務所の若手弁護士の方は、実際に仕事で倫理問題に直面した際に悩んでしまう、という実態を聞いたことが企画のきっかけでした。

本書の最大の特徴は、実務家と研究者の対話を重視したことです。研究者による論文（基礎理論編）には実務家から、実務家による座談会（実践編）には研究者からのコメントを掲載し、双方の視点を提供することで、理解がより深められるようになっています。実務の現場で起こりうる倫理問題にどう向き合えばよいか、本書がひとつの答えを導いてくれるはずです。（N.T）

Index



ジュリストの連載を書籍化するにあたり、各章に追加コメントを掲載し、一層の充実を図りました。

第1部 はじめに（座談会）

第1章 弁護士のプロフェッション性をめぐって

第2部 基礎理論編（論文）

第2章 弁護士の誠実義務と職務の独立性

第3章 守秘義務

第4章 利益相反

第3部 実践編（座談会）

第5章 事件受任における弁護士倫理

第6章 弁護士報酬と預り金管理

第7章 相手方に対する配慮義務

第8章 共同事務所

第9章 組織内弁護士

第10章 刑事弁護の苦悩

第11章 弁護士懲戒と弁護士自治

第4部 おわりに（座談会）

第12章 これからの弁護士倫理を展望する